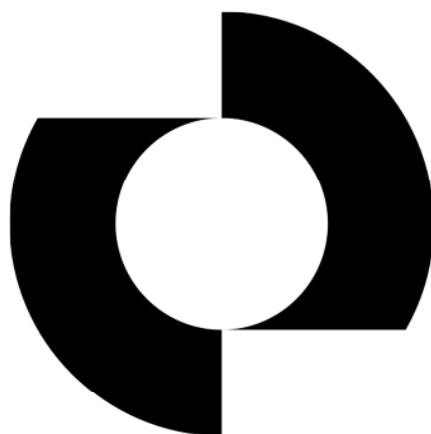


出雲崎町人口ビジョン



平成28年2月

CONTENT

第1章 出雲崎町人口ビジョンの概要

- 1 「出雲崎町人口ビジョン」とは・・・・・・・・・・ 1
- 2 「出雲崎町人口ビジョン」の位置づけ・・・・・・・・ 1
- 3 対象期間・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

第2章 人口の現状分析

- 1 人口動向分析・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- 2 現状と課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
- 3 目指すべき将来の方向性・・・・・・・・・・・・ 10

第3章 人口の将来展望・・・・・・・・・・・・・・・・ 11

第1章 出雲崎町人口ビジョンの概要

1 「出雲崎町人口ビジョン」とは

「出雲崎町人口ビジョン」は、出雲崎町における人口の現状を分析し、将来の人口の推計と展望をもとに今後目指すべき将来の方向性に関する町民の理解と情報の共有を図るものです。

2 「出雲崎町人口ビジョン」の位置づけ

「出雲崎町人口ビジョン」は、「まち・ひと・しごと創生法」に基づき、「出雲崎町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定するにあたり、その実現に向けて効果的な施策を企画・立案する上で、重要な基礎と位置づけられるものです。

3 対象期間

国の「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」は、平成72（2060）年を対象期間としていますが、本町の人口減少は他市町村より進んでおり、早めの目標設定が必要なことから「出雲崎町人口ビジョン」においては、30年後の平成57年（2045）年を対象期間とします。

第2章 人口の現状分析

1 人口動向分析

(1) 総人口と年齢3区分別人口の推移

出雲崎町の総人口は、国勢調査によると昭和35(1960)年以降、平成22(2010)年に至るまで減少の一途をたどっており、最新の平成22(2010)年は4,907人となっています。

年齢3区分人口は、生産年齢人口・年少人口の減少が続く一方で、老年人口は増加しており、昭和60(1985)年には年少人口を逆転し、生産年齢人口に近づいています。

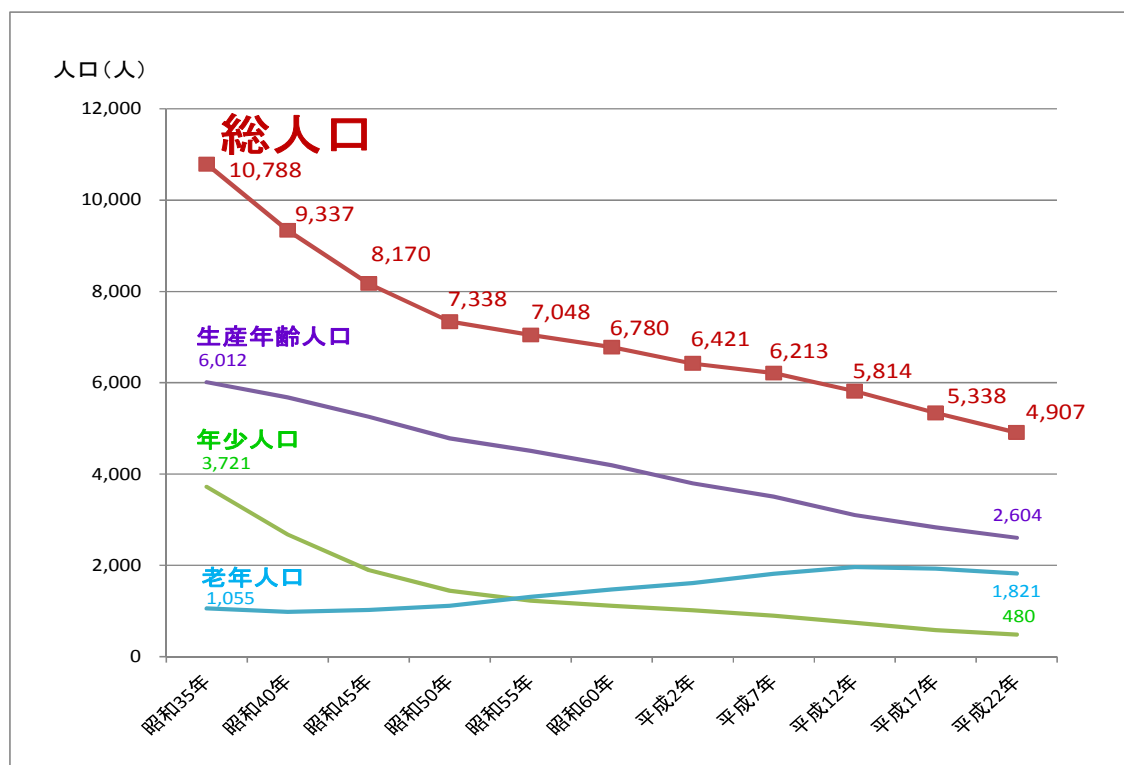
また、年齢別人口構成をみると逆三角形の形になっており、少子高齢化が進んでいることがわかります。

※年少人口…15歳未満人口

※生産年齢人口…15歳以上65歳未満人口

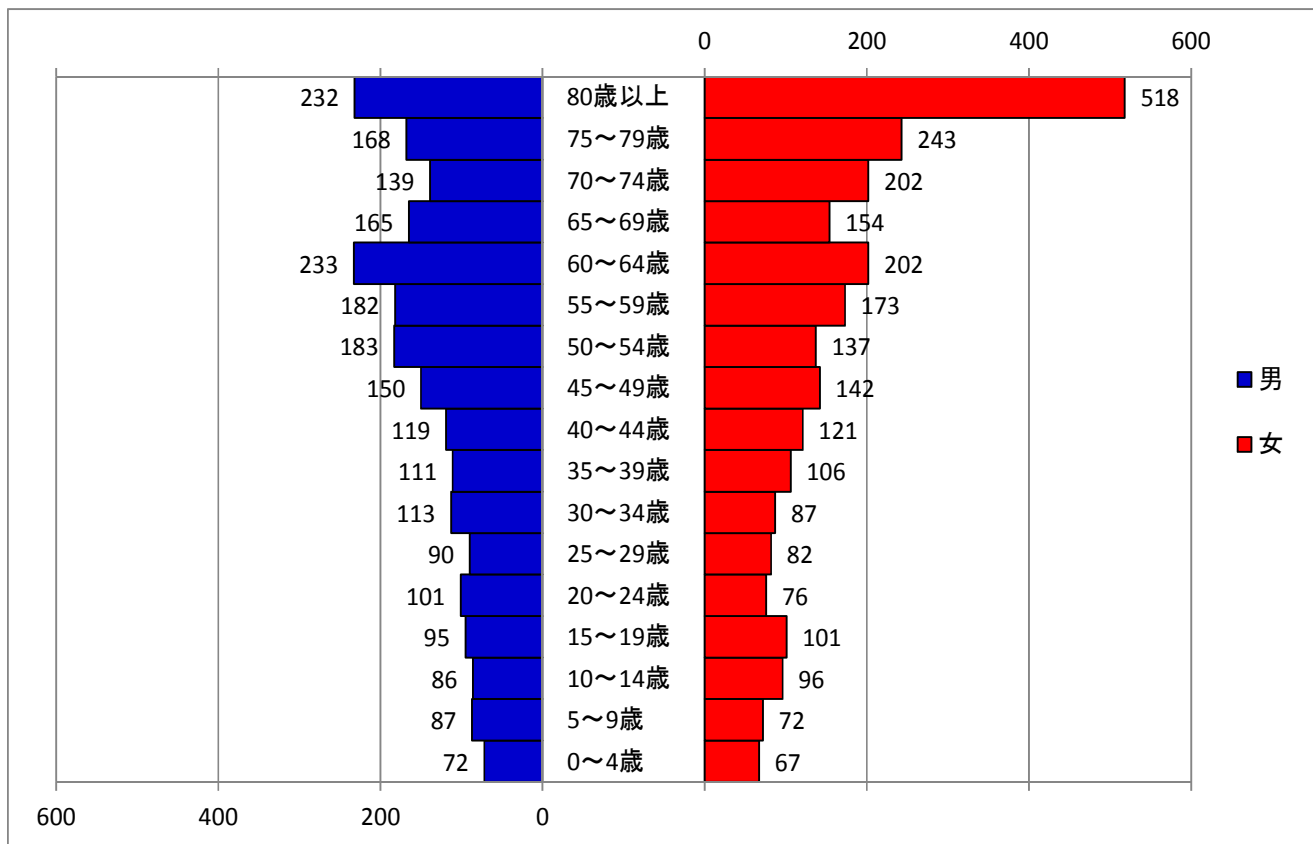
※老年人口…65歳以上人口

総人口と年齢3区分人口の推移



【国勢調査】

年齢別人口構成



【平成22年国勢調査(※年齢不詳2人は含まない)】

(2) 出生・死亡、転入・転出の推移

自然増減については、町民課の集計によると、平成元（1989）年から平成26（2014）年までの間で、改善した年はあるものの、全体的に出生数は減少し、死亡数が増加傾向にあり、自然減が続いています。これは少子高齢化の進行が主因と推定されます。

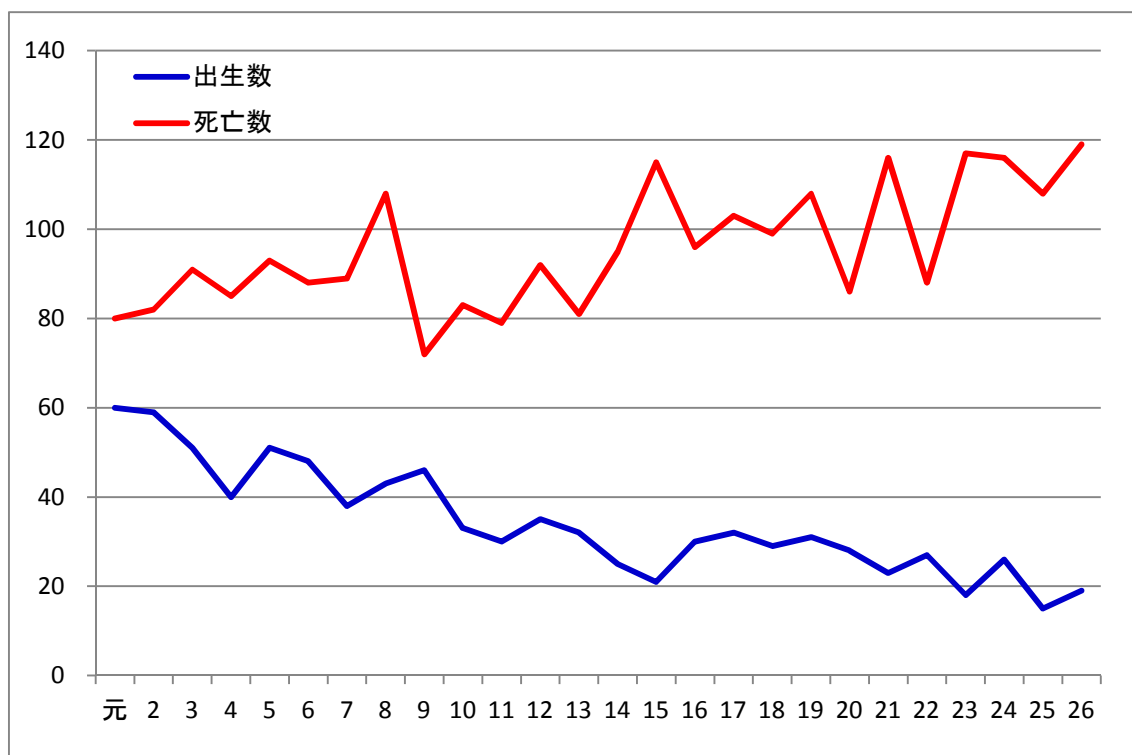
社会増減については、転入超過の年もありますが、ほとんどの年で転出数が転入数を上回っています。ただし、人口減少に伴い、減少数そのものは小さくなっています。

人口に与えてきた自然増減と社会増減の影響をみると、社会増の年はあるものの、それよりも自然減が大きく、結果として人口が増加した年はありませんでした。

※自然増減…出生と死亡による人口の増減。出生数が死亡数を上回れば自然増となる。

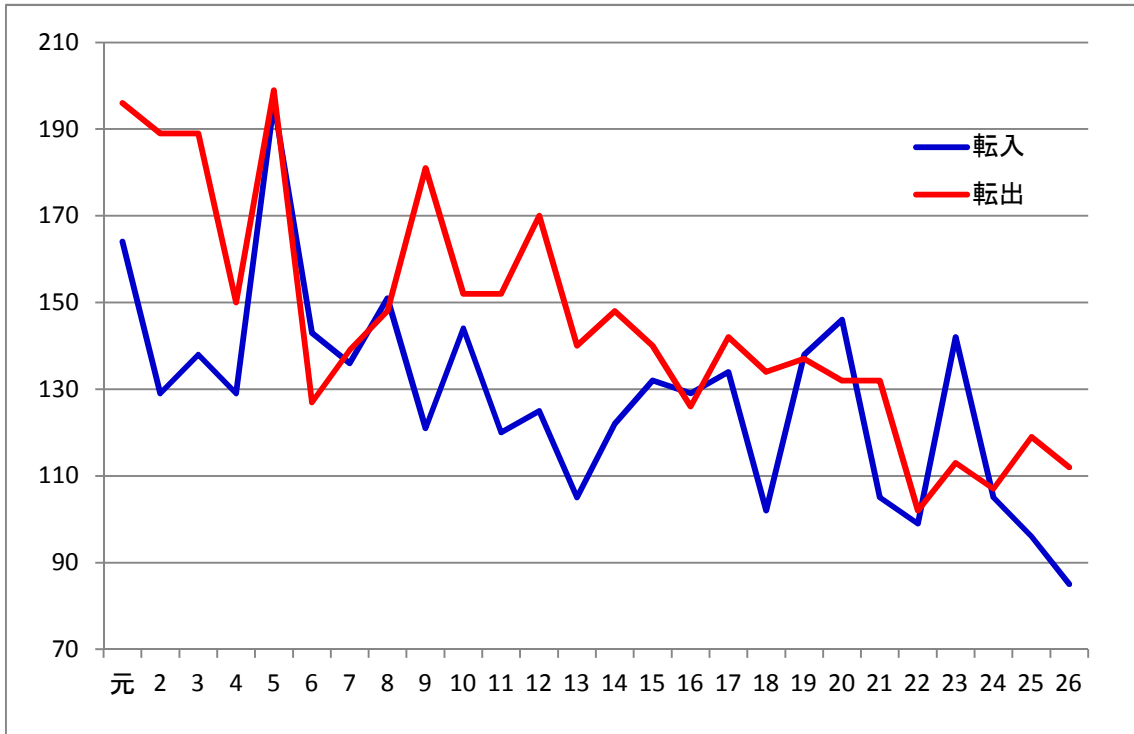
※社会増減…転入と転出による人口の増減。転入者数が転出者数を上回れば社会増となる。

出生、死亡数の推移



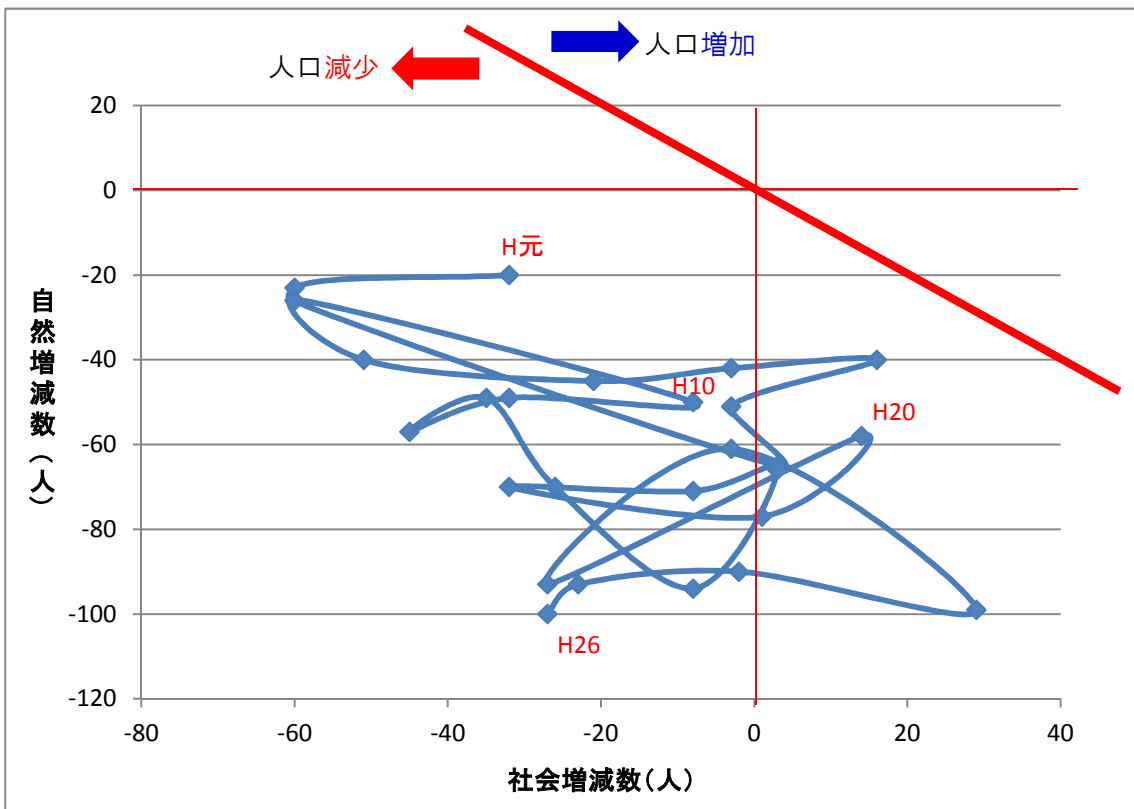
【町民課】

転入・転出数の推移



【町民課】

人口に与えてきた自然増減と社会増減の影響



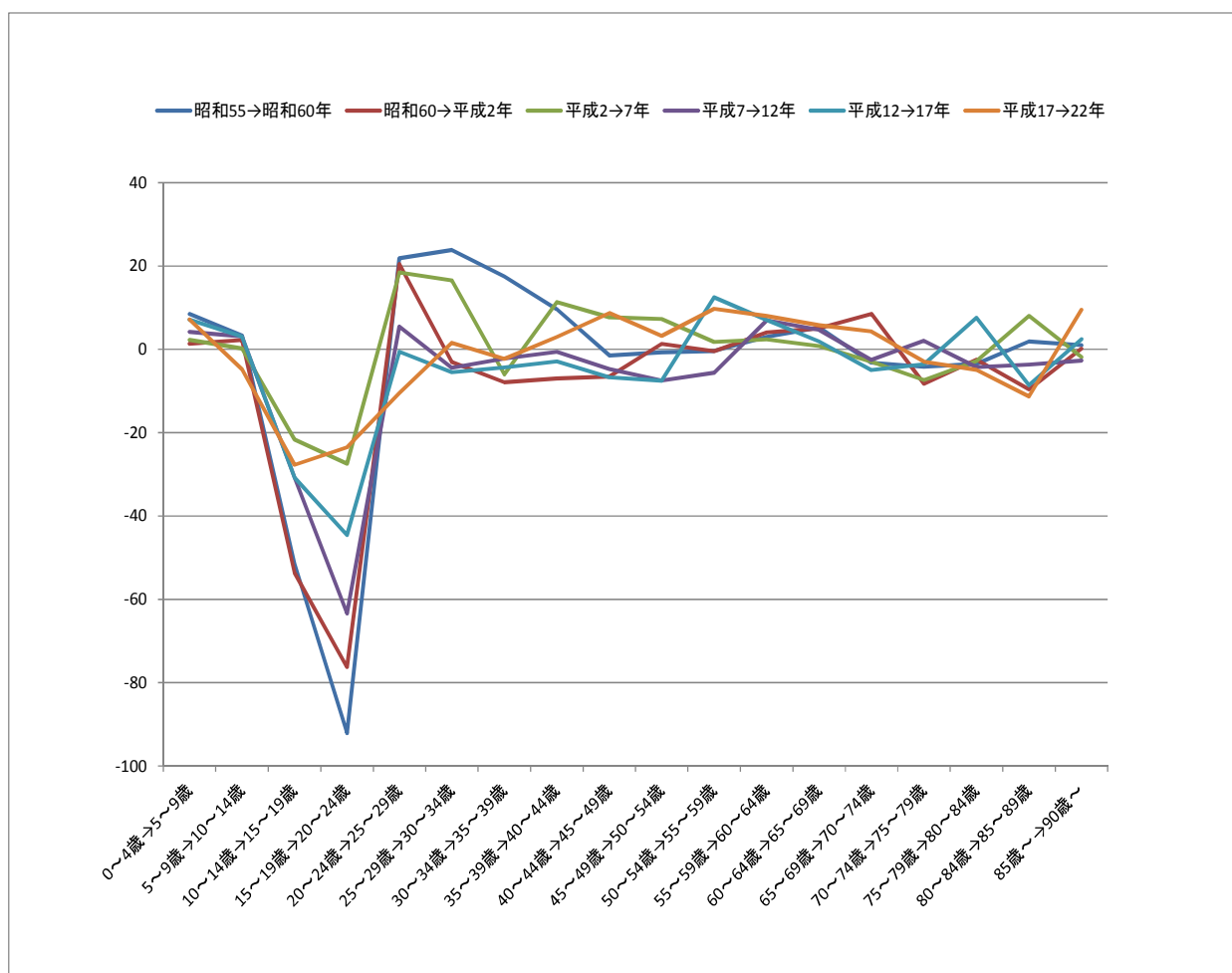
【町民課】

(3) 性別・年齢階級別の町外との人口移動の状況の長期的動向

昭和55(1980)年以降の国勢調査による年齢階級別人口移動の推移をみると、一番顕著なのは、15～19歳及び20～24歳の急激な人口減少であり、高校卒業後に離町する傾向がわかります。

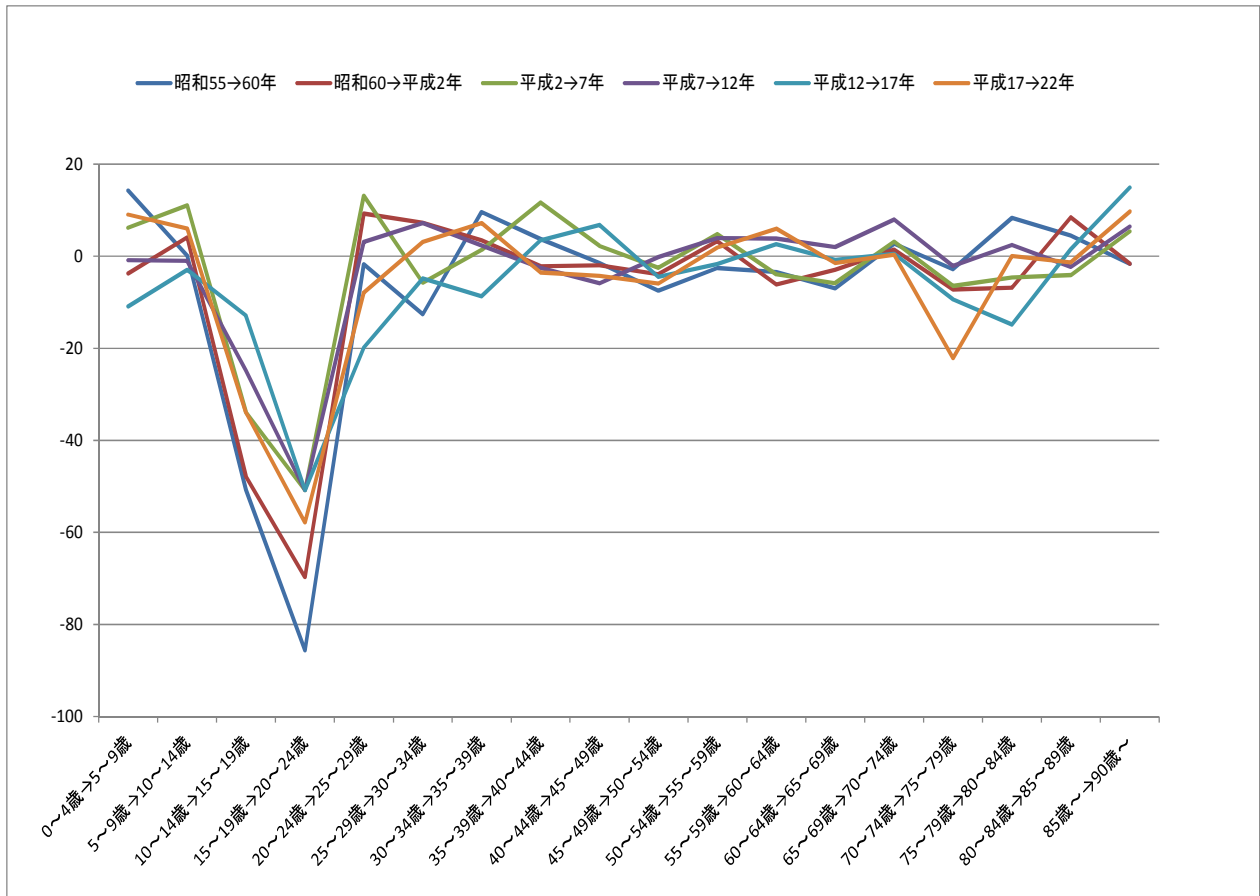
また、60～64歳については、増加傾向にあり、定年退職後に町に住む人が増えていると推測できます。

年齢階級別人口移動の推移（男性）



【国勢調査】

年齢階級別人口移動の推移（女性）



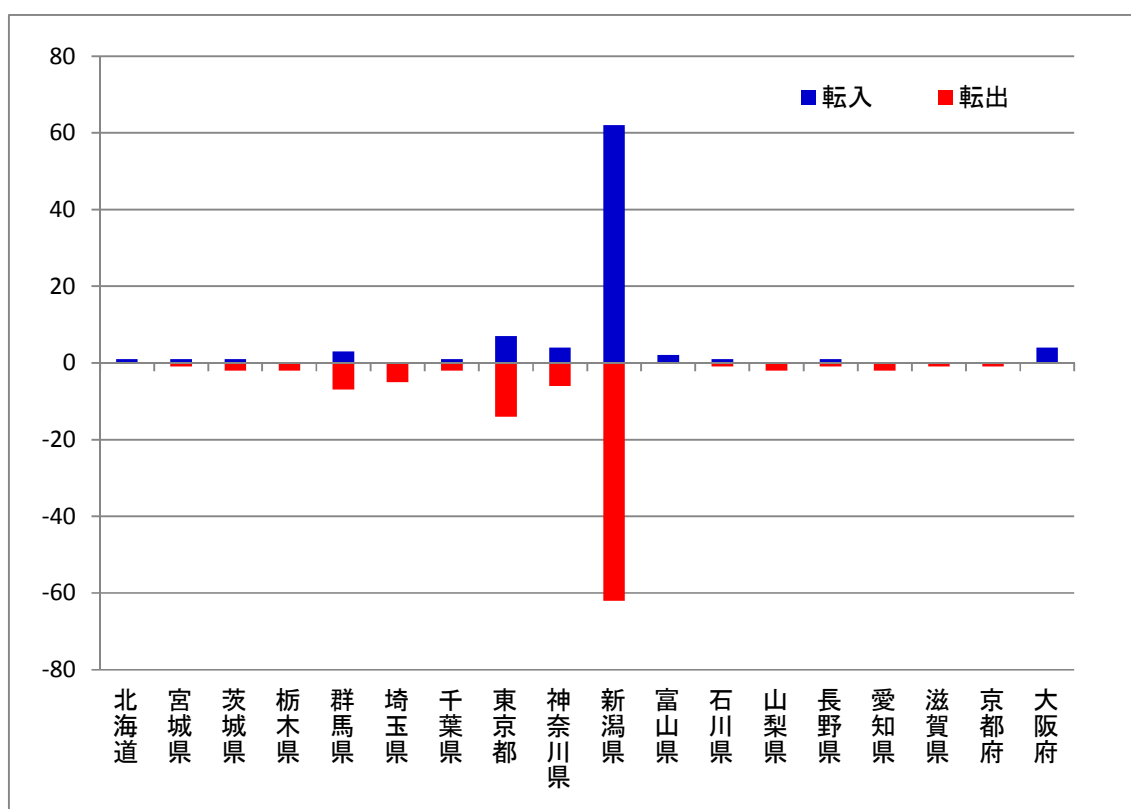
【国勢調査】

(4) 自治体別純移動数の状況

平成26年中の出雲崎町の都道府県別の人口移動をみると、東京都をはじめとする関東圏への転出が多いことがわかります。

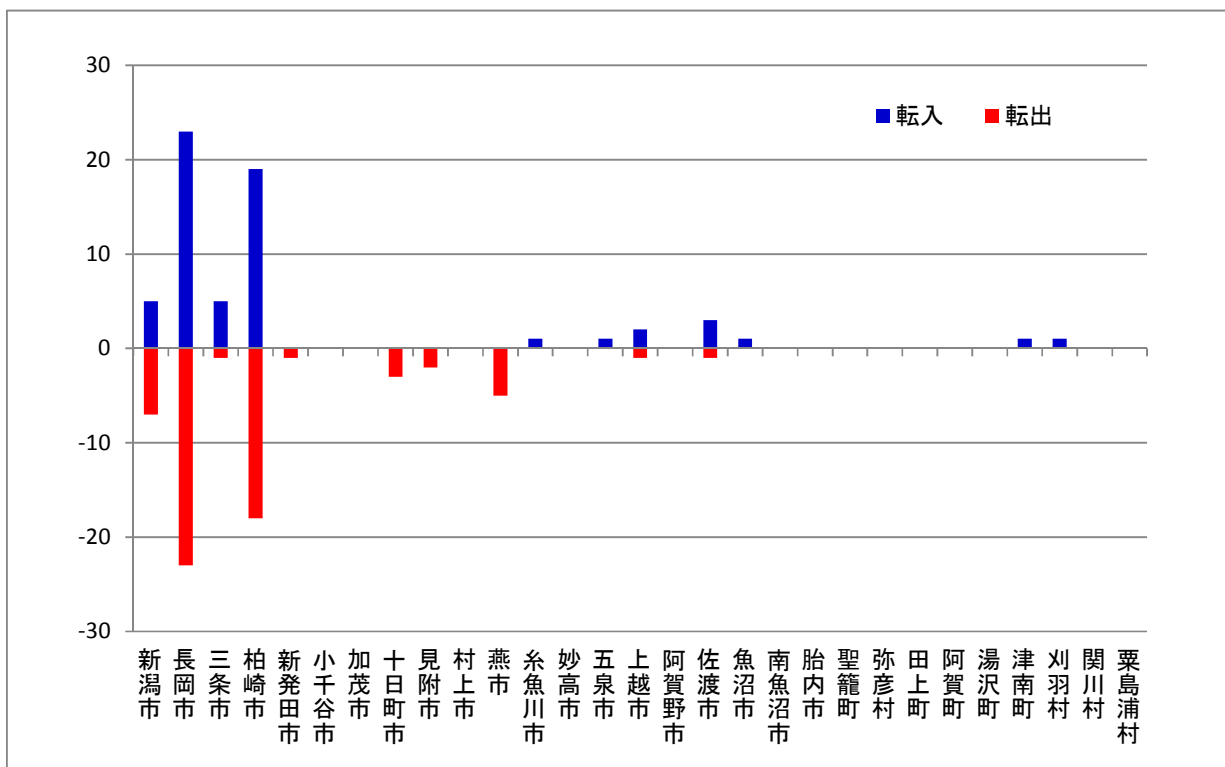
一方、県内の人口移動をみると、長岡市、柏崎市など近隣市への転出が多くなっています。人口減少の多い15～24歳の年代を考えると、進学または就職を機に町を離れる可能性が考えられますが、長岡市、柏崎市への進学で町を離れることは考えにくいことから、就職を機に転出することが多いと推測されます。

出雲崎町の都道府県別純移動数（平成26年）



【新潟県人口移動調査】

出雲崎町の県内自治体別純移動数（平成26年）



【新潟県人口移動調査】

2 現状と課題

出雲崎町の人口は、平成22（2010）年までの50年間、減少が続いています。

その大きな要因としては、都市への人口流出に伴う転出超過による社会減と、生産年齢人口と年少人口の減少と老年人口の増加で、出生数を死亡数が上回る、自然減の要因が強くなっています。

これらの改善のためには、若い世代の転出防止と、転入促進を図ることが大きな課題です。

3 目指すべき将来の方向性

出雲崎町の現状や課題、また国が示す長期ビジョンを踏まえ、これからの人口減少の問題に対応していくためには、生産人口世代（特に若い世代）の転出防止・転入促進策が重要です。

出雲崎町では、この人口ビジョンで示す将来の方向性としては、人口増減のカギを握る若い世代を中心に、出雲崎町に戻ってきたい、住み続けたい、移住したいと思える地域づくりの施策が重要です。これまでの町づくりの施策をさらに磨き上げるとともに、新たな価値を付加し、出雲崎町の魅力の向上を図ることで、地域づくりを推進します。

第3章 人口の将来展望

これまでの本町ならではの様々な取り組みに加え、「出雲崎町まち・ひと・しごと創生総合戦略」等による人口減少抑制の効果として、国立社会保障・人口問題研究所（以下「社人研」という。）による人口推計と比較して、出生率と社会動態が改善すると仮定した推計を将来展望とした独自推計を行いました。

出雲崎町では、若者世代の転出抑制や出生率の上昇につながる若者・子育て世代の呼び込みなどによる人口の増加をもたらす施策を重点的に取り組み、その効果により平成57（2045）年にはパターン4に近づけ、30年後の人口3,000人を目指します。

将来展望の概要

パターン1 …… 社人研推計準拠

パターン2 …… 出生率が上昇し（2.1※）、人口移動は現状の傾向のまま推移

パターン3 …… 転入と転出が同数で、出生率が現状（1.3程度）の傾向のまま推移

パターン4 …… 出生率が上昇し（1.8※）、転入転出も同数で推移

※国の「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」では、平成42（2030）年に1.8程度、平成52（2040）年に2.07程度を想定しています。

